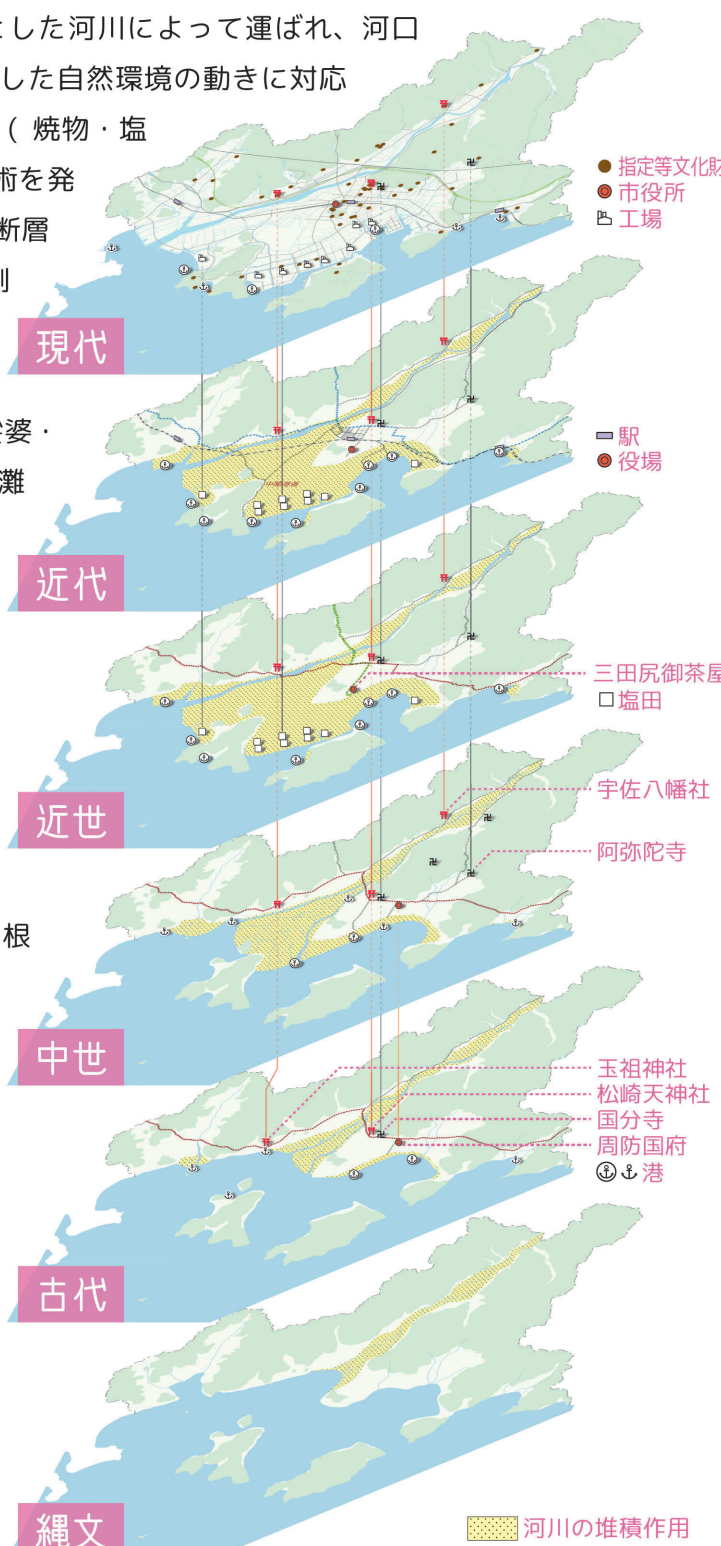
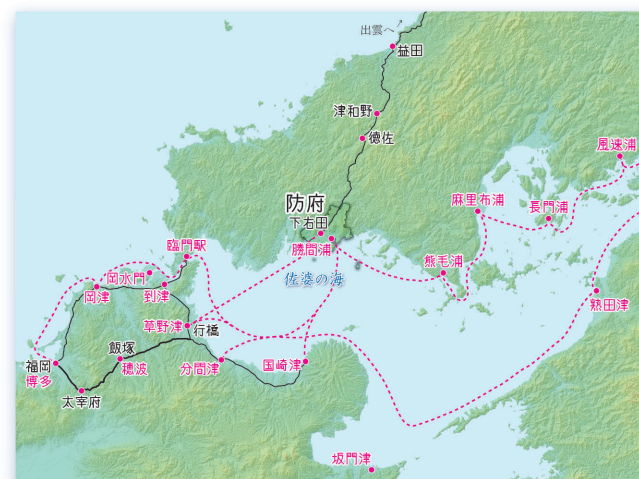


防府の歴史文化の特性

防府市には山・海・川・平野が織りなす多彩な環境で培われた文化があり、瀬戸内地域の政治・経済の中枢であり続けてきた歴史があります。こうした環境と各時代の志向にあわせて形づくられた豊かな地域文化が市内各地に継承されてきました。その地域文化を代表する存在が「文化財」であり、文化財は地域の特性がよくわかる歴史的な資産です。文化財とその周辺の環境を分析して、時間と空間を軸に紡ぐことで地域に宿る価値の体系を理解できるようになります。

花崗岩の山々で生成される真砂が佐波川を中心とした河川によって運ばれ、河口に堆積して防府の大地を形づくりしました。町はこうした自然環境の動きに対応して大きくなり、かつて地域経済を活性させた産業（焼物・塩づくり・鋳物）は大地の組成成分を有効に利用して技術を発展させてきました。また歴史的には佐波川が流れる断層は中国山地の分水嶺を越えて瀬戸内海側と日本海側の各地域を結び短絡路として利用価値が高かったことが知られています。さらに海路では『日本書紀』等の古代史料に防府の古称「サバ」（沙麼・娑婆・佐婆・佐波）がしばしば登場することから、瀬戸と灘の航法の切替えに利用される要港であったことがうかがえます。防府の地は古くから陸路と海路が交わって要衝となる地理的要件にかなった場所であることがわかります。

文化財は単体でも価値あるものですが、本構想では「テーマ」や「地域」で括る文化財の集合体としてまとめる新たな試みをおこないます。このような視点で、自然と人との歴史的関係性を根幹に据えて防府の歴史文化の特性を捉えていこうとするものです。



文化財の保存・活用の方針

これから働きかけていく文化財の保存・活用の方針を次のとおり掲げます。

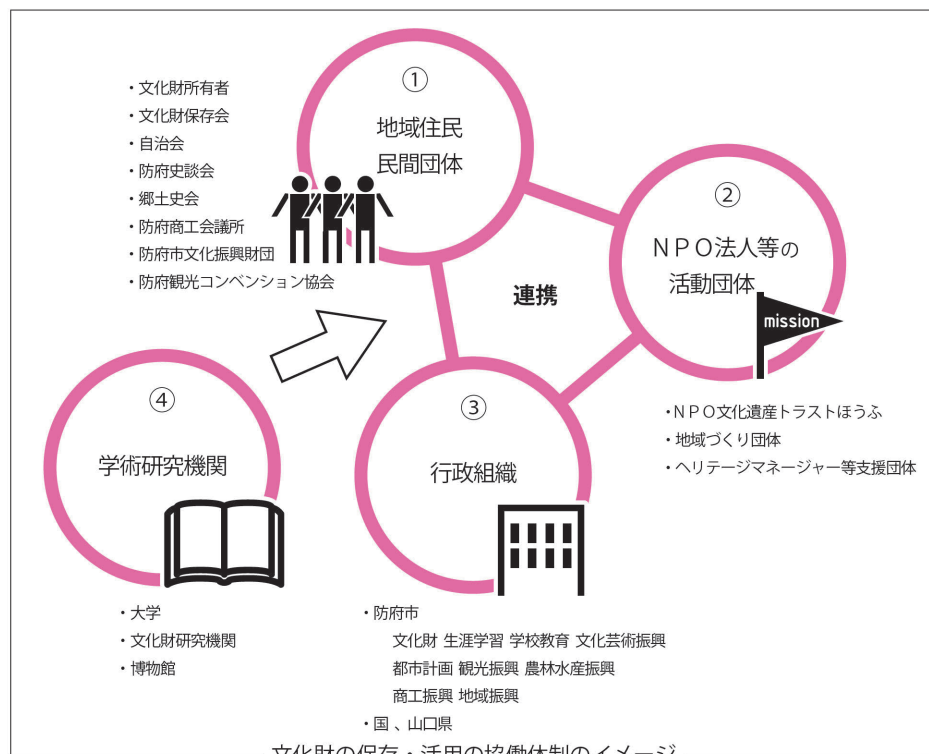
- 身近にある文化財の良さに気づける企画の実施
- 総合的把握調査の促進と基礎研究の充実
- 長期的な視点を持った保存・活用に向けての調査の実施
- 文化財保護に関わる人材育成の推進
- 文化財で地域をつなぐ
- 地域で文化財を守る
- 文化財で地域を活かす
- 文化財保存・活用の体制整備



文化財は市民にとって感性を磨き心豊かに生活する源泉ともなり、地域振興・地域づくりの資源でもあります。興味を持てる部分、関われる部分から多くの人が携わることで、地域社会の中で存在意義を保ちつつより多くの文化財が伝承できるものと考えます。

本構想では多くの市民が携わって文化財を保存・活用し、その価値を将来に伝承するという基本的理念を体现できる体制整備の確立を目指します。これからの文化財の保存・活用への働きかけに関わる市民組織を、文化財に対する社会的な役割によって大別すると、①地域住民・民間団体、②NPO法人等の活動団体、③行政機関の3者による構成を想定できます。それに加え④学術研究機関が客観的な立場と専門的見地を持って関わることにより、文化財の価値から生みだされるアイデアや人をつなぐ体制に円滑さをもたらすことが期待されます。

文化財を保存・活用するために活動する人がいて、いつでもそうした人とつながる場をつくり出すことが最初の目標となります。そして数多くの文化財と市民が共生して暮らしていく地域社会へと展開していくことを理念とします。



平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）

防府市

歴史文化基本構想

【概要版】



平成31年3月
防府市教育委員会

歴史文化基本構想とは？

概要

地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想となるものです。

理念

- ・地域のアイデンティティの確保及びそのきずなの維持
- ・人々の生活の中での文化財の保存及びその根底にある知と技の継承

防府市歴史文化基本構想の取り組み

～「防府市歴史文化基本構想」策定の2つの目的～

目的
1

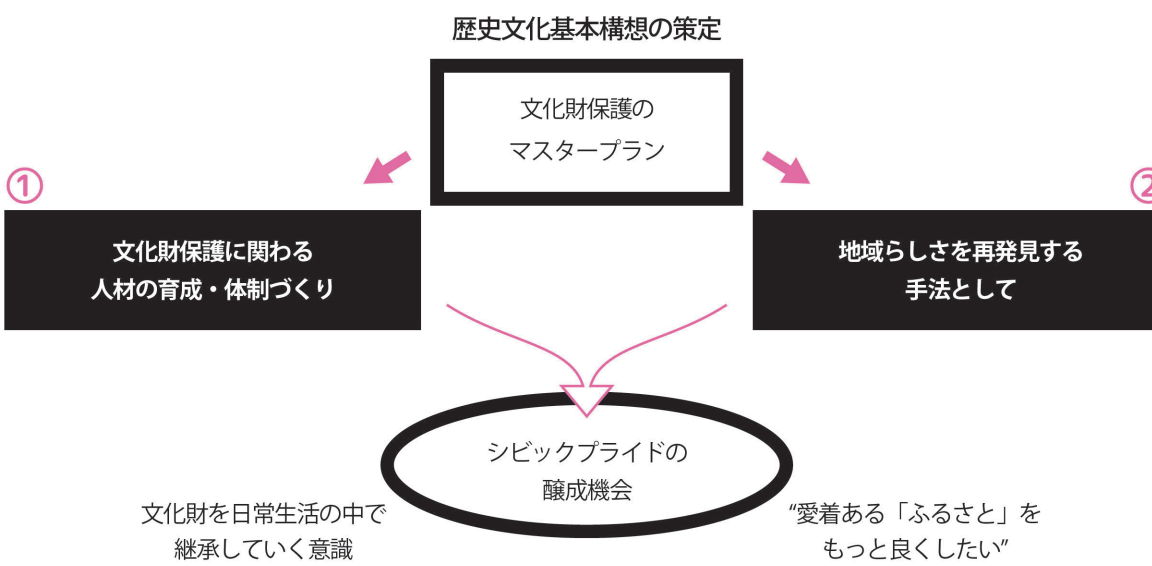
文化財保護に関わる人材の育成・体制づくり…①

周防国府にちなむ市名をもつ防府市は豊かな自然環境に恵まれた「まち」で、この地で育まれた数多くの文化財が伝わっています。しかし文化財の数量の多さや種類・所在環境等の多様性もあり、文化財所有者や行政が各個に活用のニーズや維持管理に対応するには限界があることも確かです。本構想では、これまでの文化財保護の成果を踏まえながら、これからの見据えて地域住民との連携を強め、協働体制で文化財を保存・活用しながら後世に継承することを大きな目的とします。

目的
2

地域らしさを再発見する手法の創出…②

文化財を中心に周辺環境を含めた総合的な見地で、地域文化を捉え直そうとする趣旨に特徴があります。これまでは主として文化財個々の価値に割りきった内容で評価されてきましたが、所在地において文化財を成り立たせている様々な要因をとらえて空間的な位置づけと歴史的な背景を加えることで、より「地域らしさ」を表出する効果が期待できます。



ねらい

シビックプライド※の醸成機会

文化財をとりまく環境は地域住民にとっては見慣れた風景のなかにあります。防府市民が文化財をより身近な存在として認識し、日常生活の中で継承していく意識を持てるようになることが大切です。防府市歴史文化基本構想に関わる事業では、「地域づくり」に貢献できる情報を盛り込んで、文化財を通して、「愛着ある「ふるさと」をもっと良くしたい」という誰もが持っている想い（シビックプライド）を引き出せる機会となる企画を打ち出していきます。

関連文化財群の設定

「防府市の歴史文化の特性」で考察した内容を整理して、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの大テーマを設定しました。それぞれの大テーマに切り口や捉え方の異なる2つの中テーマ(A～F)を設け、さらに最も基礎的な項目となる小テーマを付設します。今後の事業の進展により各項目が増減することを想定しています。

現段階で関連文化財群は以下のとおり、全体として大テーマが3、中テーマが6、小テーマが16項目の構成で設定します。関連文化財群の構成全体を通して、防府市が「時代を越えて人々の心を惹きつけ、魅了してきた都市文化の継承地」であることを表現します。



Ⅰ. 自然の恵みを受けて佐波の大地に築かれた文化

【山・川・大地】 キーワード：技術 素材 景観

- A 風土を反映した技術・産業
- ・砂が技術の基盤 受け継がれる熱く燃える産業
 - ・豊富な水が育んできた生産技術
- B 瀬戸内の景勝地で育まれた文化
- ・理想郷に見立てた古都
 - ・風土を彩る伝統の祭事あふれるまち



Ⅱ. 海が歴史舞台の瀬戸内防府 — 瀬戸と灘の間に活きた海の技術 —

【海】 キーワード：潮流 航海 港 安全

- C 時代の終始を見つめてきた瀬戸内航海の安全基地
- ・古代国家「日本」の黎明期を解明する鍵となる文化財
 - ・中世への幕開けの舞台となった船所 源平争いと重源上人の足跡
 - ・「日本」の近代化を志した幕末の蠢き(うごめき)を知る文化財
- D 難航の海を渡る人々が頼りにした歴史的な航路標識
- ・到達目標は佐波・防府 瀬戸内海路からの眺望
 - ・船を港に導いた文化財

Ⅲ. 往来と交流の十字路口 1300年持続した歴史的な交通都市

【人】 キーワード：来訪者 定住者 在来者

- E 気候温暖で交通至便 誰もが訪れたくなる国府の継承都市「防府」
- ・古代国家の地方拠点「周防国府」の実像に迫る文化財
 - ・大内氏の存亡を見つめた防府の文化財
 - ・毛利家の顕著な遺産群
 - ・華開いた数々の伽藍 防府は秀麗仏の宝庫
 - ・人々の願いの履歴を表わして鎮座する神々

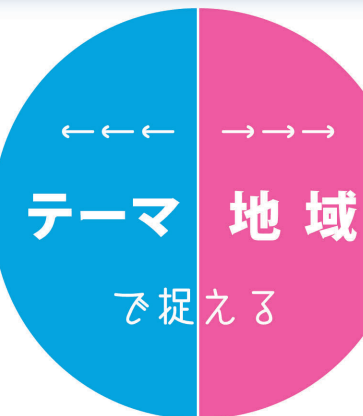
- F 交通都市に息づく伝統文化
- ・都市と村落の景観
 - ・誇れる学びの系譜

【関連文化財群】

文化財を集合体として捉える

【文化財地域文化区分】

文化財地域文化区分の主な構成要素



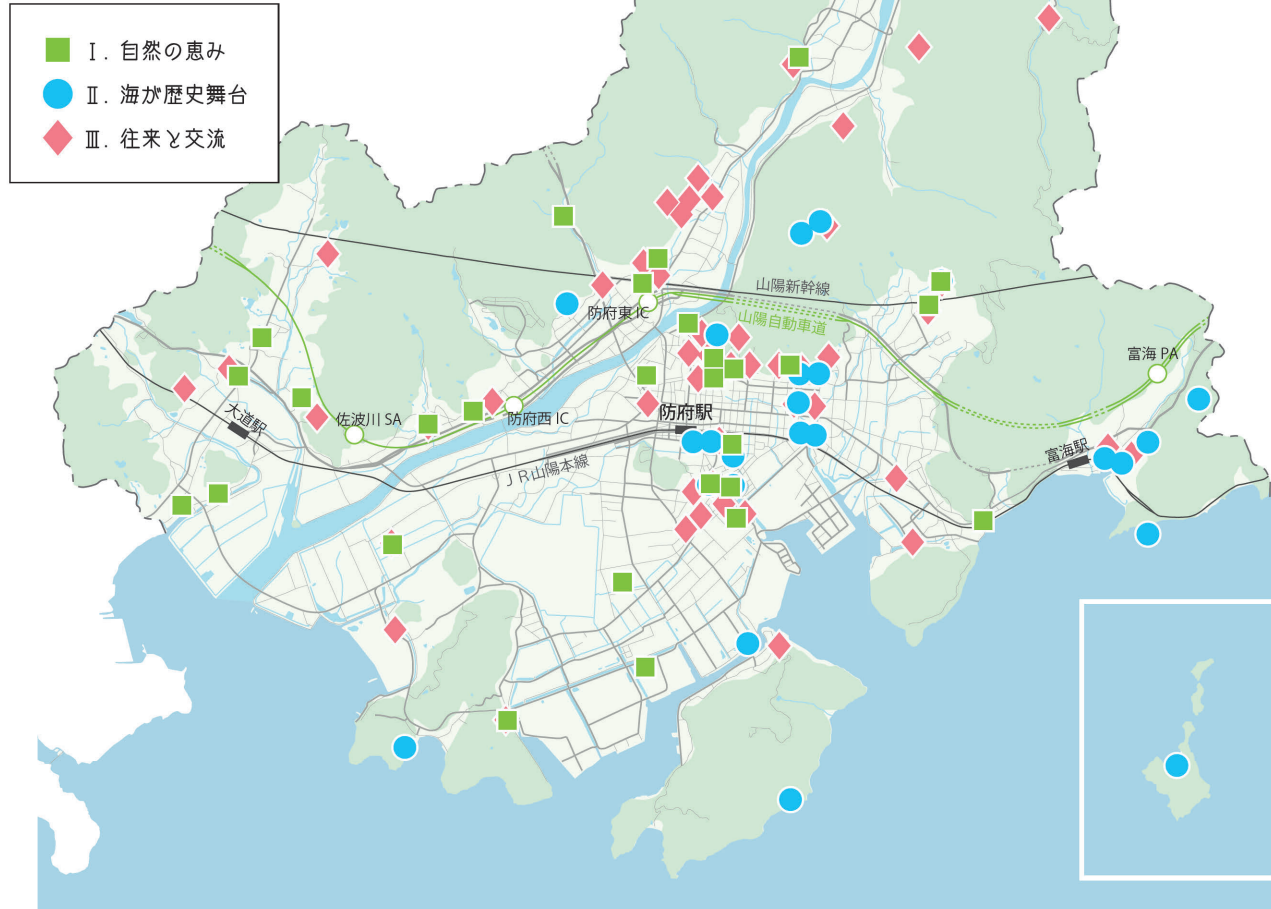
市全域を9つの地域文化に区分し、その地域内にある文化財の情報を地図上に落とし込んで集合体をつくり、総合的な見地からみた特徴から地域らしさを表現することを目指します。この区分を基礎として、今後、地域ぐるみでおこなっていく文化財調査の調査区として使用します。また各地域にある共同体の暮らしや産業を支えてきた歴史的な中核施設(有力者の邸宅跡、寺社、産業施設等)を利用して「文化財活用拠点」として整備することをねらいます。



文化財活用拠点や文化財同士を結び、各地域をつなぐ手段として近代以前の道筋を踏襲する現在の道路を「歴史的交通線」として認識し、その地域らしい風土を味わえるコース設定ができるように検討していきます。

関連文化財群は、文化財をその周辺環境も含め、総合的に保存・活用していくことを目的とした文化財の捉え方で、テーマ別にまとめられた文化財の集合体です。地元の文化財の価値や魅力を「防府らしさ」を醸しだすものとして知ってもらい、文化財の活用を促進するための方策として設定します。

将来の活用のあり方のひとつに、ほとんどが文化財で占められる市内の観光資源をテーマに沿った歴史文化のストーリーの中に組み込んで楽しめる企画として研くことがあります。文化財を通して防府の魅力を語る仲間が増えていく展開となるように取り組むことが活用に向けての目標です。



関連文化財群の一例

Ⅰ. 自然の恵みを受けて佐波の大地に築かれた文化

A 風土を反映した技術・産業

◆◆ 砂が技術の基盤 受け継がれる熱く燃える産業 ◆◆

防府古来の地名「佐波」は「細かな白砂」を表わすとされており、名称とおり市民が暮らす生活空間の殆どは幾万年も積み重なった砂の堆積層を大地としています。かつて地域経済を活性化させた伝統産業は大地の「真砂」が主となる組成成分であることを有効に利用して技術を発展

させてきました。木炭に加工するなどして燃料として利用しやすい樹木が沿海の温暖な気候に生育する環境にあることも、古代から焼物・焼物・塩づくりといった高温で熱する産業が定着した要素となります。こうした産業技術が脈々と受け継がれていることも防府の魅力です。

主な構成要素
伝統産業に関連する文化財

- 【主な文化財】
- ・末田の窯業生産工所及び登梁
 - ・防府の焼物製品
 - ・岩瀬観音寺の梵鐘
 - ・鋳物師の伝統技術
 - ・製塩用具
 - ・民謡 浜子うた
 - ・三田尻塩田旧越中屋釜屋煙突



防府市の数多くの文化財を

テーマで捉える「関連文化財群」

地域で捉える「文化財地域文化区分」と
でまとめていきます